

# J.LEAGUE™ NEWS



U-15 Jリーグ選抜 ブラジルキャンプ



U-14 Jリーグ選抜 オランダキャンプ

## アカデミー選手の貴重な国際経験

U-13・14・15・16 2011 Jリーグ選抜を海外キャンプに派遣

Jリーグは7月から9月にかけて、U-16、U-14 Jリーグ選抜をオランダ、U-15 Jリーグ選抜をブラジル、U-13 Jリーグ選抜を韓国にそれぞれ派遣し、海外キャンプを実施した。現地では試合やトレーニングによって競技力向上を図る一方、海外文化に触れ、現地の人々との交流などを通して貴重な国際経験を積んだ。前号のU-16、U-13に続き、今号ではU-15、U-14のキャンプの様をお伝えする。なお、派遣に際して、アディダス ジャパン株式会社よりユニフォームなどの提供を受けた。(2ページに関連記事)

J.LEAGUE™ OFFICIAL SPONSORS



J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER



LEAGUE CUP SPONSOR



SUPER CUP SPONSOR



J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER



J.LEAGUE™ OFFICIAL SUPPLIER



J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER



SPORTS PROMOTION PARTNER



## 競技力向上と人間形成——Jリーグ アカデミーの使命

U-13～16 Jリーグ選抜の海外キャンプでは、現地での試合が活動の中心。若いうちからプレースタイルや体格などが異なる外国の選手たちと、普段とは違う環境の中で戦うことは、国際競争力を身に付ける上で貴重な経験となる。また、ピッチを離れては同世代の選手たち、地域の人々と交流し、独自の文化に触れる機会も持った。競技力を向上させるだけでなく、豊かな人間性を育み、国際人として、一人の人間として、選手たちの成長を促すのもJリーグ アカデミーの大切な使命だ。



### U-15 Jリーグ選抜 ブラジルキャンプ

8月24日～9月2日に行われたU-15 Jリーグ選抜の海外キャンプは今年で7年目。Jリーグアカデミーの海外キャンプとしては、最も長い歴史を持つ。ブラジルのリオデジャネイロを訪れ、恒例となった第14回日伯友好カップに出場した。

大会にはブラジルや日本から28チームが参加。4チームずつ7グループに分かれての

リーグ戦後、決勝トーナメントに進む方式で行われた。ブラジルの名門クラブの育成組織チームも数多く参加する中、U-15 Jリーグ選抜は35分ハーフの試合でフラメンゴ、グレミオ・オサスコとともに1-3で敗れた後、センダスには0-1と惜敗し、初の決勝トーナメント進出はならなかった。

しかし、18人の選手たちを率いた松橋力蔵監督(横浜F・マリノス)は「ブラジル人選手の柔軟性やテクニカルな能力を、きっと感じてくれたのではないかと思う」と手応えをつかみ、選手たちも

「パスの精度や球際の強さを見習い、自分に生かしていきたい」(佐々木渉、FC東京)、「3試合を通して、後ろから周囲に指示を出すことなどはできた」(吉原大、浦和レッズ)と、多くの収穫を手にした。

また、試合以外にもブラジル全国選手権を観戦して高いレベルのプレーに刺激を受け、現地の子どもたちとビーチサッカーで交流するなど、サッカー王国と呼ばれるブラジルのスポーツ文化を体感した。



ブラジルキャンプに参加したU-15 Jリーグ選抜の選手団。日伯友好カップへの参加は2005年から。プロ選手を目指すブラジルの少年たちとの対戦で、大いに刺激を受けた



第3戦のセンダスとの試合は一進一退の攻防の末に惜敗  
ブラジルの強豪、フラメンゴvsヴァスコ・ダ・ガマを観戦



リオのシンボルともいえるコルコバードの丘のキリスト像をバックに



### U-14 Jリーグ選抜 オランダキャンプ

8月23～30日に行われたU-14 Jリーグ選抜の海外キャンプは、今年で4年目となった。過去2年と同じくオランダで実施し、同国南部のティルブルグで開催された第18回Willem II国際ユーストーナメントに参加した。

現地到着後、トレーニング、トレーニングマッチをこなし、27日に開幕した大会に臨んだ。4チームが1回戦総当たり、15分ハーフで行われた予選リーグは、初戦でアーセナル(イングランド)に0-1と敗れたものの、ゼニト(ロシア)に

3-0、ヴィレムII(オランダ)に4-0と快勝して勝ち抜いた。準決勝はバイエルン ミュンヘン(ドイツ)と対戦し、1-1の後のPK戦を5-4と制して決勝に進出。優勝を懸けて再びアーセナルと顔を合わせ、0-1と惜敗したが、昨年に続き準優勝の好成績を収めた。

準決勝で試合終了直前に同点ゴールを決めた渡邊拓也(FC東京)は「全員が絶対に勝つという気持ちで、諦めずにプレーしたから」とメンタル面の収穫を述べた。「日本人選手のテクニックは外国でも通用する」(黒川淳史、大宮アルディージャ)と自信を深



予選リーグ第3戦でヴィレムIIに快勝

め、「言葉は通じなくても、サッカーを通していろいろな国の人と分かり合えた」(花田佑、横浜F・マリノス)と交流面でも成果を挙げた。



3年連続してティルブルグでの国際ユース大会に参加したU-14 Jリーグ選抜。昨年に続き準優勝



エクセルシオール(オランダ)の選手たちとの交流会



世界遺産のキンデルダイクの風車群を見学

# 「2009-2011 JリーグGM講座」修了式を実施

「2009-2011 JリーグGM講座」の修了式が、8月29日にJFAハウスにおいて行われた。

本講座は2008年にリニューアルされ、サッカー界より選考された少数の受講者が、JFAハウスで行う集合講座、各自が実施する事前・事後課題、および海外セッションに取り組み、プロサッカークラブの経営に必要とされるマネジメントスキルの習得、実践の機会を持った。カリキュラムは「GMについて」「リーダーシップ」「チーム強化」「ファイナンス」などのテーマによるセッションが行われた。特に今回は2008年度の経験を踏まえ、それまで1年

だった受講期間を約2年に設定。より効果的、かつ実践的な内容を目指した。

7月25、26日にはセッション21の「修了プレゼンテーション」を実施。また、修了式では大東和美 Jリーグチェアマンが、受講者の一人一人に修了証を授与した。

大東チェアマンは「2009年9月にスタートした今回のGM講座は、多岐にわたり素晴らしい内容だった。各クラブにおいて、GMは運営、管理、経営にとっても、非常に重要な役割を担うポジション。皆さんが、今後の目標をしっかりと管理し、課題を解決して、Jリーグの発展のために頑張してほしい」と受講者を激励した。

受講者の1人である名古屋グランパス チーム統括部の小椋伸二氏は「自分のクラブだけでなく、Jリーグ、サッカー界全体の問題も含めて、考えさせられた2年間だった。クラブに戻り、それぞれが(GM講座で学んだことを)実行に移すことで、今後の日本サッカー界へ寄与できるよう、受講したメンバーとともに、もっと魅力ある Jリーグにしていきたいと思う」と抱負を述べた。

本講座が優れたマネジメントスキルを有する人材を継続的に生み出すことによって、クラブ、Jリーグの発展に貢献し、さらなる飛躍の礎となることが期待される。



約2年間の講座を修了した受講生。修了証を手に大東チェアマン(前列中央)と記念撮影



大東チェアマン(右)は「Jリーグの発展のために頑張してほしい」と期待を述べた

## J 2011 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ 2nd ROUND 第1戦

# 準々決勝進出を目指す戦い

決勝のキックオフ時刻、テレビ放送が決定

10月29日(土) 13:05 国立競技場  
フジテレビ系列にて全国生中継



横浜FM 4-0 川崎F  
横浜FMの2点目を決めた渡邊



浦和 2-0 大宮  
浦和の原口(左)が大宮のゴールに迫る

2011 Jリーグヤマザキナビスコカップ2回戦第1戦の4試合が、9月14日に行われた。2回戦はホーム&アウェイ方式で、第2戦は9月28日に開催。1回戦を勝ち抜いた6チームに、2回戦から出場の2チームを加え、計8チームによって争われた。また、この大会で恒例となつて

いる「ニューヒーロー賞」の対象となる若い選手たち(大会開幕時に23歳以下。今シーズンは当初の開幕予定日だった2011年3月26日時点)の活躍も目立っている。

2回戦の4つのカードのうち、二つが「ダービーマッチ」となった。

横浜F・マリノスvs川崎フロンターレの「神奈川ダービー」は、横浜FMが先勝した。キックオフから6分でMF兵藤慎剛が先制し、24分にFW渡邊千真が2点目。後半にもFW大黒将志が2点を加え、4-0の快勝で準々決勝進出に大きく前進した。

浦和レッズvs大宮アルディージャの「さいたまダービー」は、浦和が2-0の勝利。52分にFWマルシオ リシャルデスがPKを決めて均衡を破った後、19歳のMF小島秀仁のパスから20歳のFW原口元気が出加点をマークした。

清水エスパルスはアルビレックス新潟に2-1の逆転勝ちを収めた。6分に新潟のMF本間勲に先制を許すも、16分に若手コンビの活躍で同点。21歳のFW大前元紀が、20歳のFW高木俊幸のクロスを手で合わせた。74分にはMFアレックスが逆転ゴールを決めた。

ベガルタ仙台vsジュビロ磐田は、互いに譲らず0-0の引き分け。今シーズンの両チームの対戦成績は、リーグ戦も含めて3戦3引き分けとなった。

なお、10月5日(水)に予定されている準々決勝、同9日(日)の準決勝、同29日(土)の決勝は、1回戦制で行われる。



© J.LEAGUE PHOTOS

# 「チャレンジは続く。どの試合も真剣勝負」

## FIFA女子ワールドカップに審判として参加した 深野悦子 国際主審に聞く

なでしこジャパン(日本女子代表)の優勝に沸いた、ことし6~7月のFIFA女子ワールドカップドイツ2011。この大会に世界中から選ばれた16人の主審の1人となった深野悦子 国際主審は、Jリーグ事務局に勤務する。担当する運営業務や審判活動について語ってもらった。

**深野 悦子**(ふかの えつこ)

大分県出身。早稲田大学卒。Jリーグ就職後に審判活動を始め、2003年に女子1級の審判資格を取得。06年にはFIFA(国際サッカー連盟)の国際主審に登録された。国内では、女子のトップリーグであるなでしこリーグなどの主審を担当。FIFA U-20女子ワールドカップドイツ2010でも主審を務め、国際経験を積んだ。現在、Jリーグの競技・事業統括本部に所属。

**深野** プレキャンプ期間を含めて約1か月間、ドイツに滞在し、毎日、トレーニングセミナーを受け、試合に備えました。担当した試合はいつでもタフで、かつフェアで、ピッチに立てる喜びを深く感じました。

— Jリーグの業務と審判活動の両立についての心構えは。

**深野** 上司からは「常に感謝の気持ちを持って、両方努力するように」と言われています。実際にその通りで、私も職場で周囲の協力があったこそ、現在の自分があるのだと思っています。

### 「現場に立つ」ことを大切に

— ところで、サッカーとの関わりについて教えてください。

**深野** きっかけは大学2年生の時に、友人から「女子サッカー部をつくるから入ってよ」と誘われ、「サークルとの掛け持ちでいいなら」という軽い気持ちでした。

— 審判の道を志すようになったのは。

**深野** 大学卒業後、Jリーグ事務局に就職して研修期間を終えた後、最初に受け持った仕事が審判に関する業務でした。何も分からないまま担当しましたが、レフェリーの皆さんが努力していることだけはひしひしと感じていました。しかし、世間から厳しい指摘を受けることも多く、「私も経験して大変さを知ってみよう」と思ったのがきっかけです。それからは「現場に立つ」ことを大事にしてきたように思います。映画のせりふではありませんが「事は現場で起きている」ので、それを知ることが大切で、その場にはいないと分からないことがたくさんあります。選手でもコーチでも良かったのかもしれませんが、きっかけが審判だったので、審判としてピッチに立ったということです。

— 審判業務をこなしながら、審判活動にも

力を入れたわけですね。

**深野** 恐らく、両方にとって良かったのではないのでしょうか。審判の皆さんが、自分たちのことを理解してくれる担当者だと感じてくれているのを、こちらも分かるようになりました。審判の試合への割り当ても担当したので、皆さんの事情を考慮しながらできたのではないかと思います。また、外国からの招へい審判を担当した際には、審判としても本当に勉強になることばかりでした。役得ですね。

— サッカーも審判も、やめようと思ったことはありませんか。

**深野** それはありませんでした。女子サッカー部も、審判も、自分がやめてしまうと道が絶たれる、狭まってしまうと思いました。

— そうした責任の重さを自覚したきっかけは。

**深野** 審判の級が上がり、担当する試合の重要性が増すにつれて、知らず知らずのうちに感じていったのだと思います。

— 今後はどのような姿勢で審判活動を続けていきますか。

**深野** 私にとってもともと、FIFA女子ワールドカップが最終目標ではありませんでした。担当する全ての試合をきちんと終わらせることが、最大の目標です。完璧を期しても、必ず反省があり、チャレンジは続きます。どの試合も真剣勝負です。道を絶やさないために後進の指導ということもあります。澤(穂希)選手のように、「まずは背中を見せて」いければいいのですが、難しいですね(笑)。自分が担当する試合を、きちんと終わらせていくことを、これからも積み重ねていきたいです。

### 活動に不可欠な周囲の協力

— FIFA女子ワールドカップドイツ2011で、なでしこジャパンが優勝したのをきっかけに、日本中で女子サッカーへの関心が飛躍的に高まりました。

**深野** 女子サッカーが脚光を浴びて、本当に良かったと思います。選手や関係者の皆さんの、苦勞と努力のたまものだと思います。また、この快挙にJリーグが果たした役割も見逃せません。Jクラブが女子チームを保有し、地道な活動の中から、なでしこジャパンに選ばれるような選手も生まれてきたわけですから。

— 女子のサッカーでも、Jリーグは世界につながっているわけですね。

**深野** 私はJリーグ事務局で審判担当の業務期間が長いのですが、その他、育成で指導者を担当した時期もありました。そのときに接したコーチの中で、現在は女子を指導している方もいます。それが女子サッカーのレベルアップにも結び付き、FIFA女子ワールドカップにもつながる。なでしこジャパンの大活躍は、Jリーグなしには語るできません。

— FIFA女子ワールドカップでは、深野さんご自身も注目を集めました。ドイツでは2試合、主審を担当しましたね。

### FIFA女子ワールドカップ ドイツ2011 担当試合

<深野悦子主審&高橋早織副審>

・グループステージ

6月30日 カナダ 0-4 フランス

7月 3日 スウェーデン 2-1 アメリカ

<深野悦子主審(第4の審判員)>

・グループステージ

6月26日 ドイツ 2-1 カナダ

・準々決勝

7月10日 ブラジル 2-2(PK3-5) アメリカ

Jリーグ広報室 ◎ 岩元 里奈

FIFA女子ワールドカップドイツ2011におけるなでしこジャパン(日本女子代表)の活躍は連日、テレビや新聞などによって伝えられた。こうしたメディアの活動を大会ベニュー(会場)で支えたのが「メディアオフィサー」。国際サッカー連盟(FIFA)から指名されて、その任に当たった筆者の活動の一端を紹介する。



ボーフムの地元組織委員会スタッフとメディアボランティアとともに

### 会場の報道担当

なでしこジャパンの初優勝で日本中が沸いた、FIFA女子ワールドカップドイツ2011。今回、FIFAメディアオフィサーとして6月20日から約3週間、大会ベニューの一つであるボーフムで任務に就いた。私にとっては2007年の中国大会、FIFA U-20女子ワールドカップドイツ2010に続く「女子ワールドカップ」。参加するたびに感じる、組織としてのぶれることのない柱、その一方でメディア面の革新。Jリーグを中心とするサッカーファミリーの皆さんに、今回の経験をお伝えできればと思う。

今やその存在が不可欠となった「メディアオフィサー(広報担当)」。クラブにおける広報担当とは、クラブ全体の「スポークスマン」であり、チームの状況を把握し、伝える「チームの広報担当」であり、ホームゲーム開催時にはメディア関連の運営(オペレーション)の責任を負う「ベニューの報道担当」となる。

FIFAメディアオフィサーとは、この「ベニューの報道担当」という役どころ。今大会は、史上最大級の女子ワールドカップとなることが予想されており、FIFAもこの大会をきっかけに「世界中のメディアを通じて女子サッカーを広く伝え、世の中に周知させること」が目的の

一つだった。

ベルリンで開幕し、フランクフルトでフィナーレを迎えた今大会は9ベニュー。世界から集まった11名(全て女性)のFIFAメディアオフィサーが統一した知識と見解を持って、メディアの対応を行う。意外と知られていないこの「報道官」としての職務内容は幅広く、その責任は重い。会場で行われる各メディア関連施設(記者席や会見会場など)のセットアップ、大会を追うごとにその存在感を増すホスト局およびテレビ中継局とのカメラ位置やフラッシュインタビューの確認、記者会見の進行、試合の記録やプレスリリースといった情報の提供など、来場する全メディアがストレスを感じることなく取材して原稿を書き、選手、監督のメディアアクティビティが順調に行われるよう、万全の準備をする。その結果、世界中へ映像や記事が配信される。メディアオフィサーの職務とは、そのベースとなる舞台をつくるようなものだ。

### 予想外の事件への対処

FIFAメディアオフィサーとしての職務は細かく専用ハンドブックに記載されており、それを理解した上で各メディアオフィサーが判断する。ベニューが異なっても、11名の誰が判断しても同じ結果とならなくてはならない厳格な基準だ。

そんな中で誰も予想していない事件が起こることもある。ボーフムでは、グループステージのオーストラリア対赤道ギニアでペナルティエリア内の赤道ギニア選手のハンドを主審が見逃し、また第4戦目では朝鮮民主主義人民

共和国の2選手が事前ドーピング検査でキックオフ直前に失格処分を受け、先発メンバーの差し替えという事件が起きた。

だが、FIFAの対応は早かった。すぐにフランクフルトの本部から明確な指示が入り、「ハンド事件」では当該試合の責任者であるマッチコミッショナーが、「ドーピング事件」ではFIFAチーフメディカルオフィサーが記者会見場でコメントを出すことになった。前者は主審のミスを確認した上で「これ以上、審判を糾弾することはやめてほしい」と伝え、後者では今回の失格処分に至る経緯を細かく説明した。両者に共通しているのは、「素早いタイミングで事実のみを伝える」こと。それ以上の感想や規律に関することは「担当外」として一切口にしなかった。これにより、メディアは臆測で記事を書くことはできず、その時点で追及されることもなかった。

メディアに関することはメディアオフィサーチームが全責任を持ってやる。それ以外は各分野のプロフェッショナルが責任を持って対応することで、おのずと大会の成功は導かれる。基本となる知識と姿勢を全員が持ち、仕事の仲間を最大限にリスペクトする。置かれている状況が異なるとはいえ、自分の日常の仕事振り返ったときに、同じような感覚を持って仕事に臨んでいるか。また、Jリーグ38クラブが同じ基準でメディア対応やオペレーションができていないか。大会期間中、そういうことを考える時間も多かった。Jリーグ事務局で働くスタッフとして、リーグとしてできることをやらなくてはならないと強く感じた。

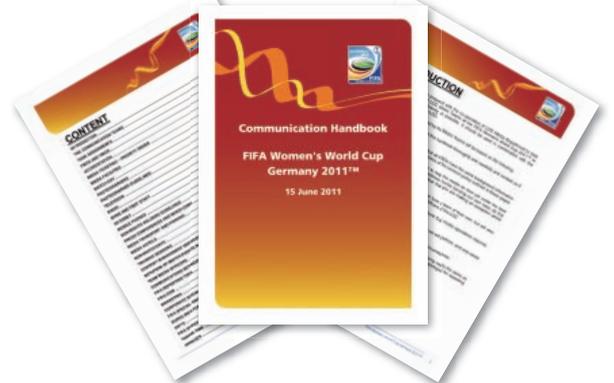
最後に、今大会を運営するFIFAサイドのスタッフの8割以上が女性だったことを付け加えたい。女性の大会は女性で運営しているという革新的な姿勢は、他の競技ではなかなか見られないのではないだろうか。近い将来、日本開催を願うFIFA女子ワールドカップでは、ピッチ内はもちろん、その周辺でも活躍する女性たちが増えることを願い、このレポートを締めくくりたい。



記者会見の進行も重要な職務の一つ



選手とメディアの接点となるミックスゾーン



メディアオフィサーの職務が細かく記載されているハンドブック

## Jクラブと歩む「地域」「ひと」

15

清水エスパルス



## 企業単独ではなく、クラブを通じて。 チームの活躍で地域への貢献も大に

### 通常のスポンサーとは異なる形で

サッカー王国と呼ばれる静岡県に本拠地を構える清水エスパルスは、ホームタウンの静岡市を中心に、県内各地でホームタウン活動を展開している。選手やチームスタッフがゲスト講師として小中学校を訪ね、学習内容をサッカーと結び付けて授業を行う「ホームタウン次世代育成プロジェクト——エスパルスドリーム教室」が本年度からスタート。この他にも市町単位で小学生児童全員を招待するなど多彩な取り組みがあるが、そんな中でも特にユニークなのが、ホームゲームの入場者数とゴール数に応じた金額を、地元のクラブスポンサー企業が福祉団体や医療施設に寄付する「エスパルス福祉基金——GOALS FOR ALL」だ。

エスパルス福祉基金は、ホームゲームの入場者1人につき5円と、エスパルスの1ゴールにつき3万円をスポンサーが積み立てる仕組み。エスパルスは「ファン・サポーターが勝利の喜びを共有しながら、ホームタウンの社会貢献に参加できる仕組みをつくりたい」との思いから、入場者数を基金に反映させた。1人で20試合に足を運べば、それだけで100円分の貢献になる計算。ゴールを後押しする声援も、間接的に基金の増額につながる。Jリーグのクラブでは初の取り組みだ。

この基金の趣旨に賛同し、初年度の2009

シーズンからスポンサーとなっているのが、エスパルスのホームタウンである静岡市を拠点に医療機器の販売などを手掛ける協和医科器械株式会社だ。「扱っている商品が一般向けではないだけに、通常のスポンサーとは異なる形でクラブを応援したかった」と池谷保彦取締役会長。一般的なPR広告ではなくCSR(企業の社会的責任)の一環として、エスパルスとともに地域社会に貢献する方法を選んだ。

2010年までの2シーズン、44試合で600万円近くを積み立て、孤児、障がい児の支援組織や子ども向け医療機関などに贈った。この春は一部を東日本大震災の義援金にも充てるなど、クラブと相談しながら基金を柔軟に活用している。

### クラブと企業の新しい関係

静岡市里親会は、福祉基金の寄付先の一つ。寄付金を使い、里親の元や児童養護施設で生活する子どもたちと里親を林間学校に招待しているという。真保和彦会長は「子どもたちはみんなサッカーが好きなので、エスパルスからの支援をとっても喜んでます」と感謝する。



池谷保彦氏

障がい者サッカーの普及や支援などに取り組む「静岡県サッカー協会ハンディキャップ委員会」も、同様に寄付を受けている。基金を活用し、知的障がい者サッカーの県代表チームへの衣料提供や、新設された特別支援学校のサッカー部へのユニフォーム贈呈などを行っている。ユニフォームを手にした生徒たちは、「エスパルスの〇〇選手のようにになりたい」と夢を膨らませ、目を輝かせながら礼状を書くという。

子どもたちから次々と寄せられる喜びの声に、協和医科器械株式会社の池谷会長は「同じ支援を行うにしても、企業単独の活動ではなくエスパルスを通じた基金だからこそ、子どもたちが夢や喜びを強く感じるのだと思います」。地元プロスポーツクラブと力を合わせた福祉活動ならではの効果を実感している。

今シーズンからは新たに知的障がい児らを試合に招待するなど、スポンサーとしての活動も拡大中だ。外出をためらいがちな障がい児がスタジアムで見せた笑顔に、「喜んでもらっているのが何よりうれしい」と目を細める。

エスパルスが勝利を重ねて入場者数が増えれば、寄付金の額も伸び、ホームタウンへの貢献が大きくなる。「だからチームに親近感や愛着が湧くし、応援にも自然と熱が入るんです」と池谷会長。クラブと地元スポンサー企業の新しい理想的な関係が、構築されている。

(静岡新聞社 谷 明洋)



静岡県サッカー協会ハンディキャップ委員会への福祉基金贈呈式



清水エスパルス 入場者の数、ゴールの数が寄付金につながり、ホームタウンへの貢献度を高める

「豊かで充実したスポーツ環境を実現し、地域に根差したスポーツクラブを中心に、日本にスポーツ文化を育む」ことを目指す「Jリーグ百年構想」のもと、Jクラブはそれぞれのホームタウンを中心に、さまざまな取り組みを行っている。そして、Jクラブの存在、活動は、地域とそこに暮らす人々に影響、刺激を与え、新たなムーブメントを生んでいる。Jクラブと手を携えながら、ともに歩む人々や、その活動を紹介するこのシリーズ。今号では清水エスパルス、ザスパ草津と連携した地域の取り組みにスポットを当てた。



16

ザスパ草津



# サッカークラブが取り組む食育活動。子どもたちに大切なことを伝える

## 将来に役立つ農業体験を

ザスパ草津はこし6月、育成組織のアカデミーU-12(12歳以下)の選手を対象にした新たな活動を開始した。テーマは食育。「スポーツ&ファームファミリークラブ」と題した活動は、クラブのオフィシャルパートナーであり、農畜産物の直売所チェーン「食の駅」などを手掛けるファームドウ株式会社との共同企画。同社の水田や農場、出荷元の農家の畑などを会場に、小学生世代の選手たちが田植えやブルーベリー狩り、トウモロコシの収穫など月1回のペースでさまざまな農作業を体験している。

ザスパ草津は以前からアカデミーの小中学生の選手を対象に、学習塾や英会話教室などサッカーの枠を超えて広く子どもの人間形成に寄与する活動に取り組んでいる。「サッカークラブとしてサッカーを教えるだけでなく、子どもたちに関わることをもっと広く捉え、さらに何かできることを考えている」とザスパ草津の植木繁晴代表取締役兼GM。食の大切さが必要とされる現代において、サッカー選手を目指す子どもたちに食事の大切さを知ってもらおうと、今回の食育に関する活動を企画したという。

その趣旨に賛同し、協力することになったのが、毎年シーズン開幕前にトップチームの選手を招き、群馬県産の農畜産物を使った食事会で選手を激励しているファームドウだった。「もともと食育分野に関する活動をしたいと思っていた」という岩井雅之社長は、「子どもの時の体験は大人になってもずっと脳裏に残っている。だからこそ、小さい時に農業や自然と親しむことはとても大切。参加している子どもたちがサッカー選手になってもなくても、今の年代で農業を体験することは将来必ず役に立つ」と活動の意義を熱く語る。



岩井雅之氏

## 活動による選手たちの変化

6月18日に高崎市内の水田で行われた第1回の活動では、小学4~6年の選手43人が田植えを体験。泥に足を取られながらも、一生懸命に苗を植えていった。田植え初体験という子どもも多く、初めは試行錯誤する様子が見られた



真剣な表情で田植えに取り組む子どもたち。こうした体験は大人になっても必ず役に立つはず

©KUSATSU ONSHEN FC

が、徐々に慣れると楽しそうに水田の中を動き回っていた。

第2回からは農作業に加えてトップチームの管理栄養士による栄養講座を開催。体づくりに大切な栄養素や試合前後の食事の取り方など、これまで同様の講座を開催してきたが、実際の農作業と連動する形で行うことで、子どもたちがこれまで以上に真剣に話に耳を傾けるようになったという。アカデミーU-12の植木雅也監督は「講座翌日の練習から、おにぎりを持参して練習後に食べるようになった子どももいる」と活動による選手の変化を感じている。



植木雅也氏

こしの活動は、主に季節の旬の農作物の収穫がメインとなっているが、「いずれは苗を植え、草むしりをした上で稲刈りをしてコメを収穫するという、作るまでの苦労といった部分も体験させたい」と植木監督。岩井社長も「長期的な活動として、徐々にバージョンアップしていきたい」と継続的な活動を視野に入れる。

「サッカー」と「農業」。互いに関わりのない分野に思えるが、勝利に向けて練習すること、収穫に向けて手入れをすることは、目的を目指して努力、苦労するという点で共通している。完成した物が簡単に手に入る現代社会。サッカークラブが取り組む食育活動は、ただ単に食の大切さを伝えるだけでなく、子どもたちに一人の人間として大切なことを伝えていく。

(上毛新聞社 入山 亘)



## TOYOTA プレゼンツ FIFAクラブワールドカップ ジャパン 2011 FIFA アンバサダーに 三浦知良選手が就任

### 「想像するだけでもわくわく」

ことし12月に日本で開催される「TOYOTA プレゼンツ FIFAクラブワールドカップ ジャパン 2011」のFIFAアンバサダーに、横浜FC(J2)に所属する三浦知良選手が就任した。「カズ」の愛称で親しまれる元日本代表の三浦選手は、2005年にシドニーFC(オーストラリア)のメンバーとしてこの大会に出場した経験を持ち、今回はFIFAアンバサダーとして大会の魅力や日本におけるクラブサッカーの素晴らしさを広めるための重要な役割を担う。

9月9日にJFAハウスで行われたFIFAアンバサダー就任会見に出席した三浦選手は「クラブの世界ナンバーワンを決める大会。それぞれに文化、歴史があり、(世界の)サッカーを引っ張ってきたクラブの対戦を、日本で

見ることができる。想像するだけでもわくわくする」と、大会への期待を語った。

### 日本のクラブも出場

大会は12月8日(木)~18日(日)に、豊田スタジアム、横浜国際総合競技場を舞台に開催される。出場するのは、世界の6地域連盟のクラブ選手権を制したチームに、開催国代表として2011 J1リーグ戦優勝クラブを加えた計7チーム。すでに、北中米カリブ海代表のCFモンテレイ(メキシコ)、南米代表のサントスFC(ブラジル)、オセアニア代表のオークランド・シティFC(ニュージーランド)、欧州代表のFCバルセロナ(スペイン)の出場が決定している。アジア代表は11月初旬、アフリカ代表は同月中旬に決まる予定。なお、アジア代表を決めるAFCチャンピオンズリーグ2011(AC



FIFAアンバサダーの認定証を披露する三浦選手。右は日本サッカー協会の小倉純二会長

L)でセレッソ大阪が優勝した場合は、アジア代表として大会に出場し、ACL準優勝のクラブが開催国代表枠で参加する。

日本のチームとして唯一、ACL準々決勝に進出したC大阪は9月14日、全北現代モータース(韓国)とホーム&アウェイの第1戦を大阪長居スタジアムで戦い、MF清武弘嗣の2得点などで4-3と先勝した。アウェイの第2戦は9月27日に開催。

### マクドナルドでJリーグ選手と会おう! 「JサポーターWOWパーティー」を Jリーグ全38クラブのホームタウンで開催

Jリーグは、Jリーグオフィシャルスポンサーの日本マクドナルド株式会社が開催する「JサポーターWOWパーティー」に協力する。

本イベントは、Jリーグ全38クラブのホームタウンにあるマクドナルドの店舗で、各クラブに所属する選手と、事前応募後の抽選によって当選したファン・サポーターが交流する。イベントの内容は、選手による「WOW」なエピソードを聞くサイコロトークや質問タイム、選手と一緒に食事をしながら抽選会を楽しむなど、選手を身近に感じてもらえる企画となっている。

各クラブの開催日時・募集の詳細については、マクドナルドおよび、それぞれのクラブ公式ホームページに掲載される。

JサポーターWOWパーティー	
開催期間	2011年9~12月(全38回) ※各クラブの開催日時については、決定次第マクドナルドの公式ホームページまたは、クラブ公式ホームページにて発表
会場	マクドナルド店舗(全38店舗) ※各クラブのホームタウン内(スタジアム近隣)にある店舗
参加方法	・携帯電話または、はがきによる応募 ・事前応募による抽選で10組20名様を招待 ・応募方法の詳細は、マクドナルドおよび各開催クラブの公式ホームページを参照 【マクドナルド公式ホームページ「JサポーターWOWパーティー」】 http://www.mcdonalds.co.jp/social/sport/wowfc/party/index.html
その他	・第1回目は9月19日にサガン鳥栖 フレスポ店にて開催 ・一部のクラブについては、応募期間が終了 ・今後の応募対象クラブおよびスケジュールは、9月30日にマクドナルドの公式ホームページにて発表

	1回戦 (開幕戦)	準々決勝	5位決定戦	準決勝	3位決定戦	決勝
開催国代表 2011 J1リーグ優勝クラブ	12月8日(木) 豊田 19:45	12月11日(日) 豊田 19:30		12月14日(水) 豊田 19:30		
オセアニア代表(OFC) オークランド・シティFC					12月18日(日) 横浜 16:30	12月18日(日) 横浜 19:30
チームA						
南米代表(CONMEBOL) サントスFC						
チームB						
チームC						
欧州代表(UEFA) FCバルセロナ						

※チームA、B、Cは、組み合わせ抽選によって、AFC(アジア代表)、CAF(アフリカ代表)、CFモンテレイ(北中米カリブ海代表)のいずれかのクラブ  
★セレッソ大阪がAFCチャンピオンズリーグ2011(ACL)で優勝した場合は、アジア(AFC)代表として大会に出場し、ACL準優勝クラブ(最上位の成績を取った日本以外の国に属するクラブ)が開催国代表枠で大会に出場する。

### 第4回ガンバ大阪スキャンビオカップを後援

Jリーグは9月20日に開催した理事会で、2011年10月22日(土)に万博フットサルクラブ(大阪府吹田市)で開催する「第4回ガンバ大阪スキャンビオカップ」を後援することを決定した。本大会は、サッカー(フットサル)を通じて、精神障がい者が社会生活に触れる場をつくり、社会復帰や回復への支援を行い、さまざまな地域との交流を図り、この活動を広めることで精神障がいへの偏見を取り除くことを目的に開催する。

